



クレデンシャルポリシー

- [クレデンシャルポリシーの概要, on page 1](#)
- [デフォルトのクレデンシャルポリシーの設定, on page 3](#)
- [エンドユーザログイン情報またはログイン情報ポリシーの編集, on page 4](#)
- [PIN同期の有効化, on page 5](#)
- [認証アクティビティのモニタ, on page 7](#)
- [クレデンシャルキャッシングの設定, on page 8](#)
- [セッション終了の管理, on page 8](#)

クレデンシャルポリシーの概要

クレデンシャルポリシーは、Cisco Unified Communications Manager 内のリソースの認証プロセスを制御します。クレデンシャルポリシーは、失敗したログイン試行、エンドユーザパスワードの有効期限とロックアウト期間、エンドユーザPIN、アプリケーションユーザパスワードなどのパスワード要件とアカウントロックアウトの詳細を定義します。クレデンシャルポリシーは、すべてのエンドユーザPINなどの特定のクレデンシャルタイプのすべてのアカウントに広く割り当てられることも、特定のアプリケーションユーザやエンドユーザ用にカスタマイズすることもできます。

クレデンシャルタイプ

[クレデンシャルポリシー設定 (Credential Policy Configuration)] で、新しいクレデンシャルポリシーを設定し、次の3つのクレデンシャルタイプのそれぞれのデフォルトクレデンシャルポリシーとして新しいポリシーを適用できます。

- エンドユーザPIN
- エンドユーザパスワード
- アプリケーションユーザパスワード

また、特定のエンドユーザPIN、エンドユーザパスワード、またはアプリケーションユーザパスワードにクレデンシャルポリシーを適用することもできます。

LDAP 認証が有効になっている場合のログイン情報ポリシー

社内ディレクトリで LDAP 認証用にシステムが設定されている場合は、次の条件を実行します。

- LDAP 認証が有効になっている場合、ログイン情報ポリシーはエンドユーザパスワードに適用されません。
- ログイン情報ポリシーは、LDAP 認証が有効になっているかどうかに関係なく、エンドユーザの PIN とアプリケーションユーザパスワードに適用されます。これらのパスワードタイプは、ローカル認証を使用します。



Note

クレデンシャルポリシーは、オペレーティングシステムのユーザまたは CLI のユーザには適用されません。オペレーティングシステムの管理者は、オペレーティングシステムでサポートされている標準のパスワード検証手順を使用します。

単純なパスワード

単純なパスワードと PIN を確認するようにシステムを設定できます。単純なパスワードとは、ABCD や 123456 といった容易に推測できるパスワードなどで、これらは簡単にハッキングできるクレデンシャルです。

単純でないパスワードは、次の要件を満たしています。

- 大文字、小文字、数字、記号の 4 種類の文字のうち 3 種類を含んでいる。
- 3 回以上連続して同じ文字や数字を使用していない。
- 繰り返しや、エイリアス、ユーザ名、内線番号を含んでいない。
- 連続する文字または数字で構成されていない。たとえば、654321 または ABCDEFG などのパスワードは許容されません。

PIN には、数字 (0~9) のみを使用できます。単純でない PIN は、次の条件を満たすものとします。

- 3 回以上連続して同じ数字を使用していない。
- 繰り返しや、ユーザの内線番号、メールボックス、またはユーザの反転させた内線番号やメールボックスを含んでいない。
- 3 つの異なる数字を含んでいる。たとえば、121212 などの PIN は単純です。
- ユーザの姓または名の数字表現 (たとえば、名前によるダイヤル) が使用されていない。
- たとえば、408408 などの複数の数字の繰り返しや、2580、159、753 などのキーボード上で直線上にあるダイヤルのパターンを含んでいない。

クレデンシャルポリシーの JTAPI および TAPI のサポート

Cisco Unified Communications Manager Java テレフォニー アプリケーションプログラミング インターフェイス (JTAPI) およびテレフォニー アプリケーションプログラミング インターフェイス (TAPI) は、アプリケーション ユーザに割り当てられたクレデンシャル ポリシーをサポートするため、開発者はパスワードの有効期限、PIN の有効期限、およびクレデンシャルポリシーの適用ためのロックアウト戻りコードにตอบสนองするアプリケーションを作成する必要があります。

アプリケーションは、アプリケーションが使用する認証モデルに関係なく、API を使用してデータベースまたは社内ディレクトリで認証します。

開発者向けの JTAPI および TAPI の詳細については、開発者ガイド (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-programming-reference-guides-list.html>) を参照してください。

デフォルトのクレデンシャルポリシーの設定

新しくプロビジョニングされたユーザに適用されるクラスタ全体のデフォルトクレデンシャルポリシーを設定するには、次の手順を使用します。次の各ログイン情報タイプに対して、個別のログイン情報ポリシーを適用できます。

- アプリケーション ユーザ パスワード
- エンド ユーザのパスワード
- End User PIN

Procedure

Step 1

クレデンシャルポリシーの設定を入力します。

- a) [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ログイン情報ポリシー (Credential Policy)]。
- b) 次のいずれかを実行します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のクレデンシャルポリシーを選択します。
 - [新規追加 (AddNew)] をクリックして、新しいクレデンシャルポリシーを作成します。
- c) システムで ABCD や 123456 などの簡単にハッキングされたパスワードをチェックする場合は、[check For Trivial パスワード] チェックボックスをオンにします。
- d) [クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウの各フィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- e) [保存 (Save)] をクリックします。

- f) 他のクレデンシャルタイプのいずれかに対して異なるクレデンシャルポリシーを作成する場合は、これらの手順を繰り返します。

Step 2

クレデンシャルポリシーをクレデンシャルタイプのいずれかに適用します。

- a) [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ログイン情報ポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)]。
- b) クレデンシャルポリシーを適用するクレデンシャルタイプを選択します。
- c) [クレデンシャルポリシー (Credential policy)] ドロップダウンから、このクレデンシャルタイプに適用するクレデンシャルポリシーを選択します。たとえば、作成したクレデンシャルポリシーを選択することもできます。
- d) [クレデンシャルの変更 (Change Credential)] フィールドと [クレデンシャルの確認 (Confirm Credential)] フィールドの両方にデフォルトのパスワードを入力します。ユーザは次のログイン時にこれらのパスワードを入力する必要があります。
- e) [クレデンシャルポリシーのデフォルトの設定 (Credential Policy Default Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- f) [保存 (Save)] をクリックします。
- g) 他のクレデンシャルタイプのいずれかにクレデンシャルポリシーを割り当てる場合は、これらの手順を繰り返します。

**Note**

また、個人ユーザに対して、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ、またはそのユーザの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウから、特定のユーザログイン情報にポリシーを割り当てることもできます。ログイン情報タイプ (パスワードまたは PIN) の隣にある [ログイン情報の編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックして、そのユーザのログイン情報について [ログイン情報の設定 (Credential Configuration)] を開きます。

エンドユーザログイン情報またはログイン情報ポリシーの編集

既存のユーザログイン情報を編集する場合、またはユーザログイン情報に割り当てられたポリシーを編集する場合は、次の手順を実行します。ログイン情報をリセットした後は、次のログイン時にユーザがログイン情報を更新する必要があるなどのルールを適用できます。次の場合にこれを行います。

- ローカル DB 認証が設定されている場合にエンドユーザパスワードをリセットする
- エンドユーザ PIN またはアプリケーションユーザパスワードをリセットする
- 特定のユーザログイン情報に割り当てられたログイン情報ポリシーを変更する

Procedure

- Step 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、次のいずれかのウィンドウを選択してください。
- エンドユーザパスワードと PIN の場合は、次を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End Users)]。
 - アプリケーションユーザパスワードの場合は、次を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)]。
- Step 2** [検索 (Find)] をクリックして、該当するユーザを選択します。
- Step 3** 既存のパスワードまたは PIN を変更する場合、[パスワード (Password)]/[パスワードの確認 (Confirm Password)] または [PIN]/[PIN の確認 (Confirm PIN)] フィールドに新しいログイン情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- Step 4** ユーザのログインに割り当てられたログイン情報ポリシーを変更する場合、または次のログイン時にユーザに新しいパスワードまたは PIN の入力を要求するなどのルールを適用する場合は、次の手順を実行します。
- a) [パスワード (Password)] または [PIN] の隣にある [ログイン情報の編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。そのユーザログイン情報の [ログイン情報の設定 (Credential Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - b) これはオプションです。新しいログイン情報ポリシーを割り当てるには、[認証ルール (Authentication Rule)] ドロップダウンリストからポリシーを選択します。
 - c) これはオプションです。次回のログイン時にパスワードまたは PIN を更新するようにユーザに求める場合は、[ユーザは次のログイン時に変更する必要がある (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオンにします。
 - d) 残りのフィールドに入力します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。
 - e) [保存 (Save)] をクリックします。

PIN同期の有効化

PIN 同期を有効にし、エンドユーザが、エクステンションモビリティ、開催中の会議、モバイルコネクト、および Cisco Unity Connection ボイスメールに同じ PIN を使用してログインできるようにするには、次の手順を実行します。



Note Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ データベース サーバが実行されており、そのデータベースのレプリケーションが完了した場合のみ、Cisco Unity Connection と Cisco Unified Communications Manager 間の PIN の同期に成功します。Cisco Unity Connection で PIN の同期に失敗すると、次のエラーメッセージが表示されます。[CUCMで暗証番号のアップデートに失敗しました。(Failed to update PIN on CUCM.) 原因: PIN の取得中にエラーが発生しています。(Reason: Error getting the pin.)]

PIN 同期が有効で、エンドユーザーが PIN を変更した場合は、Cisco Unified Communications Manager で PIN を更新します。この現象は、少なくとも 1 つの構成済みの Unity Connection アプリケーション サーバで、PIN の更新が成功している場合に発生します。



Note PIN の同期を有効にするには、機能が正常に有効化された後に、管理者がユーザに自分の PIN を変更していただくよう強制する必要があります。

Before you begin

この手順では、すでにアプリケーションサーバが Cisco Unity Connection のセットアップに接続されていることを前提としています。使用していない場合、新しいアプリケーションサーバを追加する方法については、「関連項目」を参照してください。

PIN 同期機能を有効にするには、まず [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] ページから Cisco Unified Communications Manager tomcat-trust に、有効な証明書をアップロードする必要があります。証明書をアップロードする方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) の“「セキュリティ証明書の管理」”の章を参照してください。

Cisco Unity Connection サーバのユーザ ID は、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ID と一致する必要があります。

Procedure

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)]。
- Step 2** Cisco Unity Connection をセットアップするアプリケーション サーバを選択します。
- Step 3** [エンドユーザの PIN 同期 (Enable End User PIN Synchronization)] チェックボックスをオンにします。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。

Related Topics

[アプリケーション サーバの設定](#)

認証アクティビティのモニタ

システムは、最後のハッキング試行時刻や失敗したログイン試行のカウンタなどの最新の認証結果を表示します。

システムは、次のクレデンシャル ポリシー イベントに関するログ ファイル エントリを生成します。

- 認証成功
- 認証失敗（不正なパスワードまたは不明）
- 次の原因による認証失敗
 - 管理ロック
 - ハッキング ロック（失敗したログオン ロックアウト）
 - 期限切れソフト ロック（期限切れのクレデンシャル）
 - 非アクティブ ロック（一定期間使用されていないクレデンシャル）
 - ユーザによる変更が必要（ユーザが変更するように設定されたクレデンシャル）
 - LDAP 非アクティブ（LDAP 認証へ切り替えたものの LDAP が非アクティブ）
- 成功したユーザ クレデンシャル更新
- 失敗したユーザ クレデンシャル更新



Note

エンドユーザパスワードに対して LDAP 認証を使用する場合は、LDAP は認証の成功と失敗だけを追跡します。

すべてのイベント メッセージに、文字列“ims-auth”と認証を試みているユーザ ID が含まれています。

Procedure

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理（Cisco Unified CM Administration）] から、以下を選択します。[ユーザ管理（User Management）]>[エンドユーザ（End Users）]。
- Step 2** 検索条件を入力し、[検索（Find）] をクリックして、表示された一覧からユーザを選択します。

- Step 3** [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] をクリックし、ユーザの認証アクティビティを表示します。

What to do next

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) を使用してログファイルを表示できます。また、キャプチャしたイベントをレポートに収集できます。Unified RTMT の詳細な使用手順については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

クレデンシャルキャッシングの設定

クレデンシャルキャッシングを有効にすると、システム効率が向上します。システムは、ログイン要求ごとに、データベースルックアップを実行したり、ストアードプロシージャを呼び出したる必要がありません。キャッシュ期間が経過するまでは、関連付けられているクレデンシャルポリシーが適用されません。

この設定は、ユーザ認証を呼び出すすべての Java アプリケーションに適用されます。

Procedure

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)]。
- Step 2** 必要に応じて、次のタスクを実行します。
- [キャッシングの有効化 (Enable Caching)] エンタープライズパラメータを [True] に設定します。このパラメータを有効にすると、Cisco Unified Communications Manager は、最大2分間、キャッシュされたクレデンシャルを使用します。
 - システムがキャッシュされたクレデンシャルを認証に使用しないように、キャッシングを無効にするには、[キャッシングの有効化 (Enable Caching)] エンタープライズパラメータを [False] に設定します。LDAP 認証の場合、この設定は無視されます。クレデンシャルキャッシングでは、ユーザごとに最小量の追加メモリが必要です。
- Step 3** [保存 (Save)] をクリックします。
-

セッション終了の管理

管理者は、各ノードに固有のユーザのアクティブなサインインセッションを終了するために、次の手順を使用できます。

**Note**

- 権限レベル 4 を持つ管理者のみが、セッションを終了できます。
- セッション管理では、特定のノード上のアクティブなサインインセッションを終了します。管理者は、異なるノード間ですべてのユーザセッションを終了する場合には、各ノードにサインインしてセッションを終了する必要があります。

これは、次のインターフェイスに適用されます。

- Cisco Unified CM Administration
- Cisco Unified Serviceability
- Cisco Unified Reporting
- Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータル
- Cisco Unified CM IM and Presence の管理
- Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティ
- Cisco Unified IM and Presence のレポート

Procedure

- Step 1** Cisco Unified OS Administration または Cisco Unified IM and Presence OS Administration から、次を選択します。[セキュリティ (Security)] > [セッション管理 (Session Management)]。[セッション管理 (Session Management)] ウィンドウが表示されます。
- Step 2** [ユーザ ID (User ID)] フィールドにアクティブなサインイン ユーザのユーザ ID を入力します。
- Step 3** [セッションの終了 (Terminate Session)] をクリックします。
- Step 4** [OK] をクリックします。

終了したユーザは、サインインしたインターフェイス ページを更新にすると、サインアウトします。監査ログにエントリが作成され、そこに終了した userID が表示されます。

